

2022.06.23

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
令和3年度事業報告書

事業環境

令和3年度は、上期はほぼ全期間にわたって緊急事態宣言またはまん延防止等重点措置の対象期間となったため、講習会・セミナー等はオンラインでの運営が中心となり、PMシンポジウムも当初のハイブリッド開催から、直前になって全面オンラインに切り替えての開催となった。一方、下期では制限解除に伴い、会場での開催を徐々に復活させ、オンラインと会場を組み合わせたハイブリッド開催が中心となった。

この結果、P2M資格試験については、上期はCOVID-19の影響により伸び悩んだが、下期には回復し、通期では計画を達成できた。また、P2M講習についても、オンライン講座やミニ動画講座などの新しい試みを行った結果、計画値を上回った。企業団体講習においても、オンライン講座や団体講習の依頼が増え、計画値を超える結果となった。

PMシンポジウム、東京開催PMセミナー、地域開催PMセミナーなどのイベントについては、オンライン化・IT化に取り組み、プログラムマネジメントを前面に押し出した広報を展開し、全国の国立・県立大学との産官学連携を行い、地域の特色を出して全国発信した結果、計画を上回る参加者を得ることができた。

2021年度の重点課題のうち、部会・SIGについては、複数の新SIGの発足、アンケートの実施などにより活性化を達成することができた。一方、理事を中心とした運営、P2M標準ガイドブック改訂、事務所のIT化については、着手はしたが2022年度以降に持ち越しとなり課題が残った。入会金・会費収入については、有効な手立てを講じることができず、法人会員、個人会員とも減少傾向を食い止めることができなかった。

以上の結果、収入面では予算より約14,400千円増、支出面では予算より約4,100千円増となり、最終収支は、期首予想の約1,000千円のプラスに対し、約11,300千円のプラスとなった。

1. 全般運営

(1) 総会・理事会の開催

- ① 通常総会1回、定例理事会4回、臨時理事会1回をオンラインで開催した（表7、表8参照）。
- ② 運営会議を11回オンラインで開催した（表9参照）。

(2) 新役員の選任

6月24日（木）開催の定時総会において新任理事4名、退任に伴う交代として理事4名が選任され、10名の理事が退任となった。また、監事1名が退任し、1名が新任された。

2. 重点施策の実施状況

(1) 会員（法人・個人、表 1、2 参照）

会員企業の統廃合などによる退会法人があり、新規会員企業入会も振るわなかった結果、計画値に達しなかった（口数では 3 口減）。個人会員においても、会員限定で視聴可能な動画アーカイブスを設けるなどの会員サービスを図ったが、減少傾向に歯止めをかけることができなかった。

(2) 部会・SIG 活動（表 15、16 参照）

PMDX-AWP、新規事業プログラムマネジメント、チェンジマネジメント、ロードマップ、グローバル PM、PM ノウハウ継承研究会 SIG を新たに立ち上げ、活性化を達成できた。また、SIG・部会・地域 PM 研究会の現状調査アンケートを実施した。

(3) IT 化・DX 化

Bill One や Sansan の導入など、事務所の IT 化に努めた。会員管理・資格管理のアクセスデータベースについては、Salesforce による再構築に着手した。

(4) 広報・マーケティング

メルマガ、PMAJ ニュース、オンラインジャーナル、PMAJ ジャーナル、Facebook、Youtube、ホームページ、紙媒体（パンフレット）など様々な形で情報を発信した。

(5) P2M 標準ガイドブックの改訂

担当理事により構成される改訂準備委員会を立ち上げ、月 2 回のペースで協議を行い、改訂の方向性、スケジュールなどについて協議した、

(6) 理事会中心の運営体制について

理事会で理事の役割体制について提案し、了解を得た。地域アクター、PM シンポジウム、部会・SIG、P2M 標準ガイドブック改訂、PM 普及・人材育成のタスクは活動を行ったが、サポーター、アドバイザー、DX 推進については活動が出来なかった。

(7) グローバル対応

- ・グローバル PM コミュニティとの関係性維持・強化に繋がる情報収集・発信を行った。また、グローバル PM-SIG にて情報発信・人材育成の進め方の検討を行った。
- ・海外 PM 関係団体との交流として-GAPPS TLF（Thought Leadership Forum）への参加を行った。
- ・PMI® と ENAA 及び PMAJ による 3 者協定（覚書）を締結し、協議を開始した。
- ・国内外における PMAJ/P2M 認知度の向上／拡大として、Facebook（NIN2.P2M 英語）によるプロジェクトマネジメントの教宣、また、英文 HP の見直しの検討を開始した。
- ・PMI® Authorized Training Partner (ATP) として、協会実施セミナー等への参加者に対する PDU 取得支援を継続した。

(8) 会員・資格者交流活動

会員・資格者の価値向上に向けて「P2M クラブ」を中心に交流活動を行った。一方で参加者・話題提供者の固定化がみられた。

表1【会員数】

	2020年度 実績	2021年度 計画	2021年度 通期実績
法人会員	89社	89社	83社
法人正会員	73社	73社	67社
法人賛助会員	1社	1社	1社
法人特別会員	15社	15社	15社
個人正会員	939名	1,000名	882名

表2【会員会費収入】

(単位：千円)

	2020年度 実績	2021年度 計画	2021年度 通期実績
法人会員会費等収入	8,948	8,740	8,608
個人会員会費等収入	5,959	6,300	5,679
会費等収入計	14,907	15,040	14,287

3. PM人材育成事業

(1) P2M 資格試験 (表3 参照)

2019～2020年にコロナ禍の影響により大きく落ち込んだ受験者数をコロナ前まで戻すという直近の目標と、継続している受験者数の減少傾向に歯止めをかけるという長期的目標を掲げ活動した結果、コロナ禍に入る前の2018年度並みのレベルまで回復した。しかし、コロナ禍が継続したため、長期減少傾向の歯止めには至らなかった。PMR試験は受験者確保に苦勞したが、10数年ぶりに3年連続での合格者を出すことができ、累積合格者100人にあと一人となった。

(2) P2M 講習会 (表4、10 参照)

- ・P2Mプログラム知識習得講座は5回開催で10名と横ばい状態となった。Web、SNSを活用しPDU発行、PMSプログラム試験による上位資格取得を宣伝強化した。
- ・PMR養成研修は、年間を通じたPMR資格試験啓蒙活動（PMR更新者の声、資格関連情報の発信など）や、部会・SIGなどとの連携によるPMR取得文化を醸成した。

(3) 企業・団体・大学向けPM講座

下記の企業・団体・大学向けPM講座を実施した（全て、オンラインで実施）。

- ・財産法人より受託した海外向け講座：6講座（発展途上国向け）
- ・一般PM研修：1講座（PM導入研修）
- ・大学及び研究機構：4講座（プログラムマネジャー育成活躍研修ほか）

(4) PM研究研修部会セミナー・特別講座・共催講座 (表11 参照)

- ・PM研究研修部会セミナーを5回、PMBOK®ガイド関連講座を1回開催した。
- ・特別講座はDXも含め、特別講座としての新コースを10コース以上企画したが、参加者が集まらず、開催に至らなかったものも多い。そのため、特別講座のアンケートを実施し、特別講座への期待を調査した。

- ・ 共催講座は昨年度の落ち込みをリカバリーするところまで復帰した。

表3 【P2M 資格試験 応募者数】

資格試験種類	2020 年度 実績	2021 年度 計画	2021 年度 通期実績
PMS 資格試験	97 名	100 名	156 名
PMS プログラム試験 (PMS 計)	67 名	85 名	86 名
	164 名	185 名	242 名
PMC 資格試験	317 名	390 名	393 名
PMR 資格一次試験	6 名	8 名	6 名
PMR 資格二次試験	6 名	6 名	5 名

表4 【P2M 講習会 受講者数】

講習会種類	2020 年度 実績	2021 年度 計画	2021 年度 通期実績
PMC 講習会	36 名	48 名	57 名
PMC e ラーニング	210 名	310 名	352 名
P2M プログラム知識習得講座	9 名	20 名	10 名
PMSp e ラーニング	20 名	50 名	83 名
PMR 養成研修	5 名	7 名	4 名

表5 【PM人材育成事業収入】

(単位：千円)

	2020 年度 実績	2021 年度 計画	2021 年度 通期実績
P2M 資格試験	17,572	19,710	20,924
P2M 講習会	7,098	9,796	11,222
企業・団体・大学等向け PM 講座	1,672	5,064	8,144
各種 PM 講座 (PMP 関連、 特別、共催)	2,433	1,940	1,867
事業収入計	28,775	36,510	42,157

4. P2M に関する普及・啓蒙事業

- (1) PM シンポジウム ・ 地域開催 PM セミナー ・ 東京開催各種セミナー
- ・ 「オンライン」と「IT化」により全国をワンマーケットと捉えて、プログラムマネジメントを前面に押し出した広報の全国展開を行った。
 - ・ 地域セミナーは地域の特色を出したテーマ、プログラムを設定し、各地域の取り組みや良さを全国発信した。
 - ・ 全国の国立・県立大学の産学官連携機構を開拓し、P2Mの良さを全国に発信した。

・PMシンポジウムの参加者減少については、資格証明書取得の費用対効果から、全国ネット対応可能となった地域セミナーに流れた可能性が考えられる。

・各イベントの参加者は下記の通りとなった。

- ① PM シンポ有料参加者：2,353名（計画比：117.7%、対前年比：95.8%）
- ②新春セミナー有料参加：540名（計画比：108%、対前年比：110%）
- ③産学官連携セミナー有料参加：143名（計画比：72%、対前年比：124%）
- ④地域セミナー有料参加者：522名(対前年比：100%、開催地域内参加者：30%、地域外参加者：70%)

表6 P2Mに関する普及・啓蒙事業収入> (単位：千円)

	2020年度 実績	2021年度 計画	2021年度 通期実績
PMシンポジウム	37,906	29,770	36,560
東京地区PMセミナー	8,649	3,500	3,550
地域のPMセミナー	上記に含む	1,650	3,120
月例会 書籍販売等	同上	2,800	2,959
事業収入計	46,555	37,720	46,189

表7. 総会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2021.6.24	通常総会	405名	令和2年度事業報告(案)および決算報告(案)の件 令和3年度事業計画(案)および収支予算(案)の件 役員選任の件	可決 可決 可決

表8. 理事会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2021.6.3	定例	43名	令和2年度事業報告(案)と決算見通しについて 令和3年度事業計画(案)と予算(案)について PMシンポジウム2021の進捗について	承認 承認 承認
2	2021.7.1	臨時	48名	役職役員を選任について	可決
3	2021.10.21	定例	40名	令和3年度上期事業報告 PMシンポジウム2021完了報告	承認 承認
				令和3年度理事の役割	承認
4	2021.12.23	定例	40名	2021年度第3四半期及び通期事業見通しについて PMシンポジウム2022進捗状況について	承認 承認
5	2022.3.17	定例	43名	2021年度通期事業見通しと2022年度事業計画骨子について 部会・SIGの活動状況について PMAJイベントの状況について	承認 承認 承認

表 9. 運営会議

回	開催日	備考	回	開催日	備考	回	開催日	備考
1	2021.4.20		5	2021.9.21		9	2022.1.18	
2	2021.5.18		6	2021.10.19		10	2022.2.15	
3	2021.6.15		7	2021.11.16		11	2022.3.15	
4	2021.7.20		8	2021.12.21				

表 10. P2M 講習会実施状況（受講者数推移）

開催月	PMC 講習会	P2M プログラム 知識習得	PMR 養成研修
5月	9名	3名	—
7月	10名	4名	4名
9月	9名	1名	—
11月	10名	1名	
1月	13名	1名	
3月	6名	0名	
計	57名	10名	4名

表 11. PM 一般研修

区分	開催日	テーマ等	参加者
PM 研究研修部会セミナー	2021.8.20	第 46 回 PM 研究・研修部会セミナー (8/20)	14名
	2021.9.29	第 47 回 PM 研究・研修部会セミナー (9/29)	21名
	2021.11.12	第 48 回 PM 研究・研修部会セミナー (11/12)	23名
	2021.12.17	第 49 回 PM 研究・研修部会セミナー (12/17)	27名
	2022.3.18	第 50 回 PM 研究・研修部会セミナー (3/18)	18名
PMBOK®ガイド関連講座	2022.2.5	第 40 回 PMBOK ガイド基礎講座：第 6 版対応 (2/5)	8名
PMAJ 特別講座	2021.6.4	アジャイル開発への道案内	7名
	2021.7.9	PM 成功ノウハウを見るか化し伝える技法	15名
	2021.8.20	I Tサービスのためのアジャイル	5名
	2022.3.4	PM 成功ノウハウを見るか化し伝える技法	16名

表 12. 東京例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
266回	2021.4.23	山浦 雄一	探査機「はやぶさ 2」開発での荒療治	64名
267回	2021.5.28	永谷 裕子	ジョブ型の働き方は、プロジェクトを成功させるか？	44名
268回	2021.6.25	井上多恵子	オンラインでのグローバルコミュニケーションを 上手く進めるための秘訣	38名
269回	2021.8.27	植草 立夫	ニューノーマル時代の働き方改革とは	26名
270回	2021.9.24	佐藤 淳一	住民と目指す磐梯町のミライ	23名
271回	2021.11.26	長谷川義幸	宇宙で通用するリーダーの育て方	37名
272回	2021.12.17	向後 忠明	PM の変遷とプロマネのあり方	22名
273回	2022.2.25	大和田政孝	風力発電の今後の動向について	31名

表 13. 関西例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
156回	2021.7.21	富 光弘	人口減少期の働き方とリモート環境でのマネジメント	25名
157回	2021.10.22	落合 知帆	歴史の視点から見た水害・土砂災害対策と地域社会	14名
158回	2022.1.21	溝淵 学	パラリンピックを目指した8年間の伴走活動	24名

表 14. PMAJ ジャーナル

号	発刊月	特集等
70号	4月	新春 PM セミナー2021／関西・沖縄合同セミナー2021
71号	8月	関西 PM セミナー2021／投稿レポート
72号	11月	PM シンポジウム 2021／PMAJ 表彰

表 15. 地域 PM 研究部会の活動報告

No	名称	活動状況等	
地域 PM 研究部会	1	北海道 PM 研究部会	2021年7月6日(金)に北海道 PM セミナー を開催
	2	東北PM研究部会	2021年11月25日(木)に東北 PM セミナーを開催
	3	中部PM研究部会	2021年10月8日(金)に中部 PM セミナーを開催
	4	中四国 PM 研究部会	2021年10月29日(金)に中四国 PM セミナーを開催
	5	関西 PM 研究部会	2021年6月11日(金)に関西 PM セミナー を開催
	6	九州PM研究部会	2021年12月10日(金)に九州 PM セミナー を開催
	7	沖縄 PM 研究会	2022年2月18日(金)に沖縄 PM セミナー を開催

表 16 部会・SIG 活動報告

別紙参照

表16 2021年度 部会・SIG活動状況報告(2022.06.02)

No.	部会・SIGの名称	連絡先(敬称略)	現在の活動のおおよそのメンバー数	うちPMAJの個人会員数	特記事項	活動概要
部会						
1	例会部会	部会長:枝窪 肇	6~10名	3名くらい	なし	毎月第2金曜日にKP会、第4金曜日に例会を開催。 今年度の例会開催実績は< https://www.pmaj.or.jp/library/regular.html > 5月に例会を開催した(4月は関西例会主催)。今後も毎月開催予定(10月および1月は関西例会主催)。 なお、昨年度、講師の新型コロナ罹患により、3月の例会は中止となった。
2	PMシンポジウム部会	早川委員長	約15名くらい	分かりませんが、10名以上はいると思います。	色々な会社、役職の方が参加しています。長い人は10年以上の方も。	PMシンポジウム2022の開催のための企画・運営を行っている。隔週の水曜日19:00~21:00で定例の会議。また必要に応じWG形式にて打合せを実施。今年度は、会場とオンラインのハイブリッド開催の予定。 LIVEは、9月15日~16日。講演講師は全て確定、全体で64講演。 申込開始:6月3日~ 早期割引期限は、7月31日 詳細・申込は以下の案内ページからどうぞ https://www.pmaj.or.jp/sympo/2022/index.html
3	PM研究・研修部会	部会長:坂本圭司	27名	ほぼ全員	特になし	第46回部会セミナー :ISO 21502 : 2020概要解説:8月20日 第47回部会セミナー:PMBOK®ガイド第7版の概要説明:9月29日 第48回部会セミナー:PMBOK®ガイド第7版【原則編】:11月12日 第49回部会セミナー:PMBOK®ガイド第7版【パフォーマンス領域編】:12月17日 第50回部会セミナー:PMBOK®ガイド第7版の概要説明:3月18日 第51回部会セミナー:PMBOK®ガイド第7版の概要説明:4月15日 PMシンポ2022で以下3件を講演予定 ・Society5.0時代のプロジェクトマネジメント ・PMBOK®ガイド 第7版概要解説 ・PRINCE2の実践(ユーザー企業のPMフレームワーク)
4	APC (Advanced PMR Club)	代表:枝窪 肇	18名	18名	全員がPMR資格保持者です。	毎月第3木曜日を基本に、全体会合を開催している。 今年度はPMシンポジウム2022に2つの一般講演【AJ-1】【AJ-2】で参加する。 また「プログラムマネジメント実践事例集 エッセンス版」を第4版に更新の上発行する予定。(第3版は昨年度8月に更新し、PMAJホームページ上で発行済み。 そのほか、メンバーからオンラインジャーナルへの投稿実績あり。
SIG						
1	研究開発マネジメントSIG	主査:大和田政孝	メンバーは十数名、常時参加者は数名	私以外は法人会員	特になし	フェーズ2は2022年3月で終了。SIG継続可否に関してメンバーと議論した結果フェーズ3として継続することにした。講演等で成果を発表する予定。
2	WTECH SIG	代表:石川博子	2名	1名	Web3.0のオンライン勉強会を開催しています。場所に拘らずオンラインで参加できる方々であれば、ぜひ、ご参加ください	オンライン会議ツール、それに付帯するツールや、技術の探索 Web3.0のオンライン勉強会の開催

3	組織アジリティSIG	主査 小原由紀夫:	11	6		PMシンポジウム2021における発表 PMAJ特別講座企画、開発
4	ロードマッピングSIG	主査 佐藤 祐也	14名	10名?(申し込みありません、未確認です)		<ul style="list-style-type: none"> ・全体会と分科会(事例調査分科会/先行研究分科会)をそれぞれ月次目安で開催(5/17, 7/1, 7/29, 8/25, 9/27, 10/29, 11/15, 11/19, 12/3, 12/17, 12/20, 1/5, 1/7, 2/16, 2/25, 3/18, 3/25) ・キックオフ(活動方針の合意) ・ロードマッピングに対する共通理解の醸成(共有/ディスカッション) ・分科会の起動(事例研究分科会/先行研究分科会) ・3つの事例(自動車部品、医薬品、建設)について、ヒアリングと考察を実施 ・約50の文献をリストアップし、主要文献数件からのエッセンスを抽出 ・PMシンポジウム2022での発表に向け、上記内容のまとめを実施中。
5	チェンジマネジメントSIG	主査:芝尾 芳昭	6名	6名	6名中5名はイノベーションマネジメント(株)で、5名が中心となり議論を進めています	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム・プロジェクトの成果を上げるためのチェンマネジメントプロセスを定義し、実施のために活用できるツールをあわせて準備完了 ・チェンジアジリティ組織成熟度モデルを定義し、30社を超えるベンチマキングを実施しモデルの検証を行い、変革を推進できる組織の傾向を調査した
6	グローバルPM SIG	主査:加藤 亨	18名	12名		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月定例会を開催(4/5、5/6、6/10、7/5、8/5、9/10、11/2、10/8、12/6、1/11、2/1、3/11、4/12、5/12) ・人材育成グループと情報発信グループに分かれて活動を実施。 ・2022年度は、PMJの英語版ホームページのデザイン案をまとめる予定。
7	新規事業プログラムマネジメントSIG	主査:井口 佳一	6名	6名	ある程度仮説が出来てきたので、7月~8月くらいにPMAJ会員向けにアンケートを実施させて頂きたいので、別途相談させていただきます。現在までの出来高は、その際に共有させていただきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議および個別打合せ含め、計8回実施。 ・新規事業の成功要因および失敗要因を調査分析済み。 ・新規事業に取り組んでいる5社へインタビューを実施済み。 ・6月末にコア部分のアウトプットを完成し、9月までに全体を完了予定。 ・可能であれば、7月にPMAJ会員向けのアンケートを実施したいので、事前にご相談させていただきます。
8	PMDX-AWP	主査:林 幹高	5社10名程度	8名程度		<p>毎週金曜日午後3時より定例ミーティングを実施。 現在、COPアジア・日本支部立ち上げの準備に向けて協議を継続している。 6月24日(金) 19:00より、例会にて以下のテーマで講演予定。 テーマ「AWPの実装と普及活動の紹介」 ～ 建設分野の生産性改善を目指して ～</p>
9	PMノウハウ継承研究会SIG	主査:吉野 均	18名	6名	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年4月20日キックオフ会、5月27日に第一回定例会を開催済み。今後月一回の定例会を開催予定 ・当面、富士通から当研究会限定で開示された『ものがたり』を順次査読頂いて、査読結果を基に意見交換を行う ・今年度は来年度に向けて、その『ものがたり』を再整理し、広く公開可能な形にするため出版等の企画を立てるところまでを目標に進める